

誌上行学講習会

高佐日焯上人

「此の欠点を補つて唯識と近代心理学を突き合せ、別に自分の研究を加えて、心の組立てとその秘密を明かにし、誰でも容易に己れの心の真相を客観出来るようにしたのが拙著『整識観』である。之に依つて百界心理の心象の依つて起る原因を、明瞭に突き止めることが出来るのである」

この整識観を勉強いたしますと、百界心理がどういふところから起つて来るかという理由がはつきり解ります。こうなると自分の心を自分が支配出来るようになります。客観ということは、自分の心を向うにおいて見ることで、自分の心をお客さまにして、別の自分を主人として観る。そうすれば心の実体がよく解る。そしてそれが整識観なのであります。

「二、此の心識学の指針となつたものは左の日蓮大聖人の遺されたヒントであつた。『我観一切普平等とは九識なり。無有彼此とは八識なり。愛憎之心とは七識なり。我無貪著とは六識なり。亦無限礎とは五識なり。我等衆生の観法の大体なり』(御義口伝・薬草論品五箇の大事・第五) 此の聖意の解説が、整識観構成の内容であるから、講義を終つて照合するのが便である」

難かしい言葉で皆さんには珍文漢文でありましようが、今は一応そういう文章上の証拠があると考へていて下さい。とにかく日蓮大聖人ほどの聖者になりますと、我々凡夫のとうてい考へ及ばないことを、正しくすっきり見通されるのであります。

これからはこの御聖訓を一々に解明しつつ、人間の本当の心の実体をさぐり、やがては何故人間は宗教にやらねばならないか、その宗教も大乘仏教、就中妙法蓮華経、日蓮仏教によらねばならないのかを結論として世に公表するわけでありませう。どうかより一そう真剣に勉強して下さい。お願いを申し上げます。

「整識とは、我等の自覚心識を整頓し、心の組立てとその働きを明らかにすることであつて、主として主我の内容(秘密心識)に切り込み、精神分析に於ける前意識、或は無意識の構成を明らかにし、超心理学に於ける思念伝達、靈感現象等の原因に探り入るものである」

整識という名前は、我々の眼のさめていて気のついて(別に心がごちゃごちゃになっているわけではありませぬが)正しく整然とさせることをいふのであります。主我とは、我れとか、自分とか拙者とか一般に使われている心の主人公を言うのであります。さて自分とは一体何か?ということになります。解りそうではないか?説明のつかないものであります。「ええ、私は私自身でありまして私以外では無いと思ひます」等と言つてもさっぱりしなない。実はこれは、はつきり解らないのが本当なんです。主我は秘密心識と云つて解らないようになっています。古来この難問題に切り込んで行ったのがフロイドの精神分析学というものであります。このフロイドという人はオーストリアのお医者さん……

(以下次号)